

第3学年 道徳学習指導案

指導者 神道 朋子

1 主題名 自然を大切に作る心〔3-(2) 自然愛〕

2 資料 ほたるの里（自作の読み物資料）

3 主題設定の理由

(1) 価値について

本主題は、道徳教育の内容項目「3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」の中の「(2) 自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切に作る」にかかわる内容である。児童は低学年において、身近な自然の中で遊んだり、動植物の飼育栽培などを経験したりしている。自然や動植物と直接触れ合うそれらの体験を通して、自然や動植物に親しむ気持ちや優しい心を養ってきた。それを受けて、中学年では、自然や動植物に親しむと共に、自然の美しさ、偉大さ、不思議さに気づき、自然やその中に生きる動植物を大切に作る心をさらに育てる。そして、高学年において、人間も自然の中で生かされていることから、共存のあり方を積極的に考え、自分にできる範囲で自然環境をよくしようとする態度を育てていく。

自然や動植物に親しんだ経験はあるが、身近な自然への関心や自然と主体的にかかわろうとする気持ちは高まっていない子どもたちに、「自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切に作る心」を育むことは意義深いことである。日本や地球の自然環境の悪化が懸念されている今だからこそ、自然や動植物を愛し、自然環境を大切にしようとする態度を身に付けることが重要であると考えられるからである。また、人との触れ合い、自然や生き物とのかかわり合いを通して豊かな心を育むことができるからである。

児童は、読み物資料「ほたるの里」や映像資料などの自作教材、並びに、ゲストティーチャーの説話や主人公の手紙などの補助教材を通して、同じ郷土に暮らす身近な人たちが郷土の自然を守るために、人々と助け合いながら活動し、共に生きるという実感や達成感を深めたり、生命の尊さを感じたりしていることを知ることができる。そして、自然を大切に作る活動の素晴らしさと大切さを感じることができよう。その思いが、郷土の自然を大切に作るために自分にできることをしようとする意欲につながっていくと考える。

(2) 児童の実態について（略）

(3) 資料について

本時で活用する資料「ほたるの里」は、赤城町の宮田で実際に行われている、ほたるの里を守る活動を題材とした自作の読み物資料である。「宮田ほたるの里を守る会」の役員の方や二人の女子高校生から聞いた話、会報及び小中学生の感想文を読んで感じたことなどをもとに作成した。物語の内容には、実話をもとにした部分と物語性を高めるために脚色した部分（主に三段落目まで）がある。ゆかを主人公にして、小学生の目から見たほたるの姿と高校生の目から見たほたるの里の人たちの姿を描こうとした理由は二つある。一つは、この「宮田のほたるの里を守る会」の活動には大勢の子どもたちがかかわっており、その子どもの視点から思いを伝えた方が児童の心に響くのではないかと考えたからである。二つ目は、ほたるの里を守る会の方々のお話の中に印象的な言葉があったからである。それは、「子どもたちが将来遠くに行っても、懐かしく思い、帰りたくなる里をつくりたい」という言葉、高校生の二人が話していた「将来も活動を続けたい。そしていつか、子どもと一緒にほたるが見たい」という言葉である。大人と子どもの共通したその思いを、高校生であるゆかの言葉で語らせたいと考えた。

本資料を活用することにより、児童がほたるや自然のすばらしさを感じ、郷土の自然を大切に作る人たちの思いや努力を知り、自然を大切に作ることの喜びや楽しさに気づき、実践への意欲をもつことができるようにしたい。そのために、資料の三段落目にほたるの乱舞の景色を表現することで、児童がほたるのもつ美しさや神秘さに感動し、ほたるを見たい、ほたるの里に行ってみたいという思いをもつことができるようにしたいと考えた。また、活動の様子については、八段落目に苦労したことや子どもたちの努力について具体的に叙述し、16年間の活動の裏に努力や協力があつたことを強調した。さらに、補助教材の提示を工夫し、自作の読み物資料だけでは伝えきれない活動の様子や人々の思いを伝えられるようにしている。具体的には、写真や動画を提示して場面の様子を思い浮かべられるようにすると共に、実感をもって道徳的価値をとらえられるようにする。また、守る会の方をゲストティーチャーとしてお招きし、活動の様子や思いを問答形式で具体的に話していただく。さらに、主人公ゆかの手紙を読み聞かせて返事を書く活動へとつなげ、自分とのかかわりを実感しながら、自然を大切にすることへの意欲がもてるようにする。

4 指導方針

- 5月末の社会科の学習「赤城町めぐり」において、半月後に行われる宮田の「ほたるまつり」を紹介し、興味をもたせる。また、総合的な学習の時間の学習において、「赤城町のたからもの」について話し合い、赤城町の自然に関心をもたせる。
- ほたるの写真を提示したり、ほたるまつりに行った経験を発表させたりすることにより、宮田のほたるの里への関心をもたせる。
- 主人公のゆかが1年生の時に見た「ほたるのないしょ話（2匹の光の点滅）」や「ダンスパーティー（乱舞）」の動画を提示することにより、臨場感を味わいながら主人公の心情を感じ取れるようにする。
- 主人公の心情やほたるの思いを吹き出しに書かせることにより、それぞれの言葉で思いを綴らせると共に、書くことへの抵抗感を和らげる。
- ほたるの里を守る会の方をゲストティーチャーとしてお迎えし、実際の映像を提示しながら16年間の活動の様子や思いを話していただくことにより、資料の内容や道徳的価値が実感をもってとらえられるようにする。
- 児童がポイントを絞ってゲストティーチャーのお話を聞くことができるように、資料の内容の順に、①ほたるが減った背景、②ほたるの里を守る活動の経緯、③大変だったこと、④あきらめずに活動を続けた理由、⑤目標や願い等について、担任の質問に答える形で話していただく。
- 主人公から届いた手紙を読み聞かせることにより、自分とのかかわりを実感しながら、自然を大切にすることへの意欲がもてるようにする。
- 主人公からの手紙は、児童が今までの自分を見つめることや実践意欲をもつことができるような内容となるように、ほたるの里を守る会の高校生と相談して作成する。
- 自然を大切にすることを自分の生き方に結び付けて考えることができるように手紙を書く活動を設定する。また、目的意識や相手意識をもって書く活動ができるように、「主人公のゆかさんに返事を書こう」という課題を提示する。
- 事後の総合的な学習の時間における「赤城町のたからもの」についての調べ学習で、調べる内容の幅が広がったか、意欲的に調べているかなど、学習の様子や態度の変容を見取る。また、アンケートや作文を通して、日常の自然体験活動へのかかわり方を把握する。
- 日常的に自然や動植物と心を通わせ、豊かな心が育まれるような環境整備や教師の働きかけを行う。

5 本時の学習

(1) ねらい

ほたるの里を守ろうとする地域の人たちの努力と知り、郷土の自然を大切にしようとする心情と郷土の自然を大切にするために自分にできることをしようとする実践意欲を養う。

(2) 準備

教師：資料「ほたるの里」、ワークシート、赤城町の自然の写真と掲示用小黒板、ほたるの里の活動を紹介するビデオや写真、ポイントカード、大型テレビ、主人公からの手紙、吹きだし型の小黒板（3枚）と吹きだしカード（5枚）、マジック5本

ゲストティーチャー：ほたる観賞ボックス

(3) 展開

	学習活動 発問 <input type="text"/> 中心発問 <input type="text"/>	指導上の留意点 ◆評価項目【評価の観点】（評価方法）
導入 3分	<p>1 赤城町には様々な自然があることを想起し、宮田の宝物である「ほたる」と「ほたるの里を守る人たち」について学ぼうとする意欲をもつ。</p> <p>○赤城町には大切な自然がたくさんあるな。</p> <p>○ほたるまつりに行ってほたるを見たよ。</p> <p>○ほたるも赤城町のたからものなのかな。</p> <p>◎「宮田のほたる」について知りたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間に児童から出された「赤城町のたからもの（自然）」を写真と共に提示し、社会科の「赤城町めぐり」を振り返りながら、赤城町に残る自然を確認する。 ・赤城町の宝物として「ほたる」を挙げた児童や「宮田のほたるまつり」に行った経験のある児童に知っていることや感想を発表してもらい、「宮田のほたるの里」について関心をもつことができるようにする。 ・「ほたる」や「ほたるまつり」の写真を大型テレビで提示し、関心を高める。

展開 32分	2 資料「ほたるの里」の範読を聞いた後、前半（三段落目まで）のあらすじをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほたるの里の全景」や「水路のわきの遊歩道」の写真を大型テレビで提示することにより、場面の様子を思い浮かべられるようにする。
(10分)	<p>3 ほたるの美しさに感動するゆかの心情を考え、自然のすばらしさや不思議さを感じ取る。</p> <p>ずっと動かずにゆめのようなけしきを見つめていた時、ゆかは心の中でどんな言葉を言っていたのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の主人公が見た、ほたるの「ないしょ話（2匹の光の点滅）」や「ダンスパーティー（乱舞）」の動画を提示することにより、臨場感を味わいながら、主人公の心情を感じ取れるようにする。 ・「ゆかが心の中で言っていた言葉」を吹き出しに書かせることにより、主人公ゆかの言葉で思いを綴らせる。
(7分)	<p>4 写真を見ながらゲストティーチャーの話を聞き、実感をもって後半（4段落目から最後まで）の内容や道徳的価値をとらえる。</p> <p>【担任からゲストティーチャーへの質問】</p> <p>①なぜ、ほたるはへってしまったのですか。</p> <p>②ほたるを増やすために、どんな活動をされたのですか。</p> <p>③大変だったことはありますか。</p> <p>④それでもあきらめずに続けた理由は何ですか</p> <p>⑤夢や願いは何ですか。</p> <p>《ゲストティーチャーの話を聞いている時の意識》</p> <p>○ほたるを守るためにみんなで勉強し、いろいろな活動をしたんだな。</p> <p>○みんなで力を合わせ、あきらめずに働き続けたんだな。</p> <p>○たくさんの生き物が暮らす美しい里をつくることはすばらしいことだな。</p> <p>○私も自然を大切にしよう。</p> <p>○自然を大切にするためには、自然について調べたり、できることを話し合ったり、実際に行動したりすることが大切なんだな。</p> <p>○水や緑を守るために、私にできることは何だろう。まずはごみ拾いをやってみようかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・40年以上前にはどこでも見られたほたるが17年前頃には3・4匹となり、11年前には約300匹、今年は約600匹と増えていったことを、黒板にポイントカードを掲示しながら確認する。 ・いったん激減したほたるがなぜ増えたのか、ゲストティーチャーに尋ねる活動を設定し、自然を守る活動への理解を深める。 ・ゲストティーチャーに16年間の活動の様子や思いを話していただく際、実際の映像を提示することにより、資料の内容や道徳的価値をとらえられるようにする。 ・児童がポイントを絞ってゲストティーチャーのお話を聞くことができるように、資料の内容の順に、①ほたるが減った背景、②ほたるの里を守る活動の経緯、③大変だったこと、④あきらめずに活動を続けた理由、⑤目標や願い等について、担任の質問に答える形で具体的に話していただく。 ・ねらいとする価値を焦点化するために、④と⑤については、「自然を大切にすること」への意欲を高めるための内容を話していただく。 ・ほたるの思いを考えさせることにより、ほたるの立場から、ほたるの里を守る活動を見つめ直し、その大切さを理解できるようにする。
(10分)	<p>5 「ほたるたちがゆかに伝えたい思い」を考え、ほたるの里を守る活動が自然のために役立つ大切な活動であることを理解する。</p> <p>ほたるたちはやさしい光で、ゆかにどんなことを話しかけているのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数人の児童の意見を吹き出しカードに書かせて黒板に掲示し、発表を聞き合うことにより、多様な考えに触れながら自然を守る活動の大切さが理解できるようにする。
(5分)	<p>6 ほたるたちの声を聞いた時の主人公の心情を考え、自然を大切にすることを通して得られる達成感や喜び、願いなどを感じ取る。</p> <p>○守る会の人たちと力を合わせて活動したか いがあったな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公が「考えていたこと」を問うことにより、主人公が行ってきた活動のよさや喜び、今後の願いや目標などに目を向けて、主人公の思いを深く考えられるようにする。 ・ワークシートの吹きだしに書かれた内容を机間指導で見取り、意図的指名により、2・3人の児童に発表させる。 ・吹きだし型の小黒板に板書することで、主人公の心情を目立たせる。

第3学年 道徳学習指導案

指導者 神道 朋子

1 主題名 郷土の伝統を大切にすること〔4-(5) 郷土愛〕

2 資料 上三原田歌舞伎を守り伝える地域のおとなたち・子どもたち（自作の読み物資料） 上三原田歌舞伎に関するDVD、取材VTR

3 主題設定の理由

(1) 価値について

本主題は、道徳教育の内容項目「4 主として集団や社会とのかかわりに関すること」の中の「(5)郷土の伝統と文化を大切に、郷土を愛する心をもつ」にかかわる内容である。

自分が生まれ育った郷土は、自己の形成に深くかかわるとともに、生涯にわたって心の拠り所となる大切なものである。したがって、児童が地域の人々、伝統、文化などのかかわりを深め、郷土のすばらしさを自覚し、郷土に親しみや誇りを感じながら生活できるようにすることは重要であると考えられる。

児童は低学年における生活科などの学習や遊びを通して、学校や家庭のまわりの様子に目が向けられるようになってきた。身近な自然や人々と触れ合うことで、郷土への親しみや愛着が芽生えてきている。中学年では、社会科や総合的な学習の時間における見学や調べ学習を通して、地域の特色やよさに気付くとともに、地域で行われる行事や活動に興味をもち主体的にかかわろうとする姿が見られるようになる。そうした時期に、地域の伝統や伝承する人々に目を向けさせ、それらに親しむことを通して郷土を愛する心を育てていく意義は大きい。郷土に親しみ、郷土を大切にすることで、高学年においては、郷土をよりよくしていこうとする態度をはぐくんでいく。そして、最終的には、我が国の伝統や文化に愛着と誇りを持ち、国を愛する心をもって生きていくことのできる人間の育成へとつなげていくことが大切であると考えられる。

(2) 児童の実態について（略）

(3) 資料について

上三原田の歌舞伎舞台は、全国に例を見ない特殊な機構をもつ日本最古の回り舞台で、昭和35年、国の重要有形民俗文化財に指定された。上三原田の人々は舞台と共に舞台操作技術も伝承し、貴重な文化遺産を今に受け継いでいる。舞台は文政2年（1819年）、地元の水車大工 永井長治郎によって建てられ、以後190年もの長い期間、地元の人々によって大切に保存・伝承されてきた。公演は太平洋戦争で中断したものの、戦後に復活し、5～10年の間隔で行われてきた。その公演も昭和51年を最後に途絶えていたが、平成6年の修復を機に平成7年度には上三原田歌舞伎舞台操作伝承委員会が発足し、18年ぶりに舞台が復活した経緯がある。

歌舞伎にかかわる経験や意欲が十分ではない児童に、このような郷土の伝統を大切にしようとする心情や実践意欲を育てるには、本時の学習を通して次の四つの意識をはぐくむことが重要であると考えられる。一つは「上三原田の歌舞伎舞台は赤城町だけではなく、日本にとっても大切な宝物である」こと。二つ目は「地域の多くの人たちが努力を積み重ね、190年もの長い間、舞台や歌舞伎を守り伝えている」こと。三つ目は「歌舞伎や舞台操作は難しそうだが、楽しさや やりがいもありそうだ」という意識。四つ目は「歌舞伎舞台や歌舞伎を守り伝えることは大切なことであり、子どもを含めた地域の人々の協力が必要である」という意識である。それらの意識を「上三原田歌舞伎を守り伝えるために、私は〇〇をしてみたい」という実践意欲にまで高めたい。そこで、本時では、伝承活動に尽力されている地域の人たちを題材とした自作の読み物資料と、映像資料の活用を図る。また、ゲストティーチャーによる説話や体験活動を取り入れ、人やものとのかかわりを深める。それは、伝承活動を行う地域の様々な人々の表情や言動を通して、実際の活動や思いを具体的に理解することにより、それらを共感的に受け止めたり、自己の生き方に結び付けて考えたりすることができるようにするためである。

活用する自作の読み物資料は2種類ある。1枚目の資料「上三原田歌舞伎を守り伝える地域のおとなたち」には、舞台操作伝承委員の方や永井長治郎の親戚、舞台の修復工事の担当者、歌舞伎の指導者、義太夫など6名の地域の方々の活動内容や思いが顔写真と共に吹き出しに綴られている。児童は、この資料を通して、様々な立場の人たちが伝承活動に尽力していることを理解するであろう。2枚目の資料「上三原田歌舞伎を守り伝える地域の子どもたち」は、地元中学校の歌舞伎愛好会の生徒や子ども歌舞伎に所属している小中学生たちの歌舞伎に対する思いを記したものである。この資料を読んで、同じ年齢の子どもたちや在校生・卒業生たちが歌舞伎を演じていることに驚きや親しみを感じる児童は多いと思われる。これらの読み物資料を通して、前述の四つの意識をはぐくんでいきたい。また、読み物資料と並行して写真や

動画などの映像資料を活用し、読み物資料だけでは伝えきれない活動の様子や人々の思いを伝えていく。写真や動画には、歌舞伎舞台のしくみや復活劇の経緯、伝承活動や修復作業の様子、歌舞伎の練習風景などが収められている。

4 人権教育とのかかわり

地域とのかかわりが希薄になりがちな今日、地域の人・自然・文化財などのかかわりを通して、人間関係づくりの基礎を身に付けることや自己の生き方について考えを深めることが十分にできない現状が見られる。

中学年段階では、地域の人やものとのかかわりを深め、それらに親しみや誇りを感じながら生活することで、よりよい人間関係づくりやよりよい生き方を学んでいくことが重要である。

そこで、本時では、歌舞伎舞台や歌舞伎にかかわる地域の人たちの努力や思いを読み物資料や映像資料を通して具体的に理解したり、ゲストティーチャーと触れ合ったりすることにより、伝統の大切さや人となつながらの楽しさを実感し、様々な人の思いを共感的に受け止めることができるようにする。

【育てたい能力・態度】

- 読み物資料や映像資料、ゲストティーチャーとの触れ合いを通して、伝統と文化を守り伝える人たちの思いや努力のすばらしさ、人となつながらの楽しさに気付く。【感性】
- 歌舞伎を続けたいと思う理由を考えることを通して、歌舞伎を演じる子どもたちの気持ちを共感的に受け止めることができる。【技能】
- 自分の考えを伝えたり、友達の考えを最後までしっかりと聞いたりすることができる。【技能】
- 郷土の伝統と文化を大切にすることのすばらしさを感じ、伝統と文化を大切にするために自分にできることを考え、実践しようとする意欲をもつ。【実践力】

5 本時の学習

(1) ねらい

上三原田の歌舞伎舞台や歌舞伎を守り、伝えようとする地域の人たちの活動や思いを知り、郷土の伝統を大切にしようとする心情と郷土の伝統を大切にするために自分にできることをしようとする実践意欲を養う。

(2) 準備

教師：読み物資料、年表、ポイントカード、便箋、写真、ビデオ、DVD、拍子木、遠見絵、ノートパソコン、大型テレビ、CDデッキ
 ゲストティーチャー（2名）：法被、番傘、下駄、義太夫節のCD

(3) 展開

	学習活動	発問 <input type="checkbox"/> 中心発問 <input checked="" type="checkbox"/>	支援及び指導上の留意点 ○人権教育にかかわる配慮点
導入 3分	1 上三原田の歌舞伎舞台の見学を振り返り、舞台を見た感想を発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・予想される児童の意見や意識 ◎目指す児童の意識 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 上三原田の歌舞伎舞台を見学して感じたことを発表しましょう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・中をのぞいたら広がった。 ・たくさんのしくみがあることを知った。 ・回転するところが見たい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台操作伝承委員の人たちが着ている法被を提示して上三原田歌舞伎の話に興味をもたせる。 ・歌舞伎舞台の見学を想起させるため、写真を提示する。 ・1～2名の児童の発表を聞いた後、「舞台の動く仕組みを実際に見たい」という見学後の感想を紹介し、学習活動の2につなげていく。
展開 35分 (10分)	2 写真やDVDの映像を見て舞台の価値を確認し、舞台に対する思いを発表し合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 国の重要有形民俗文化財である上三原田の歌舞伎舞台についてどう思いますか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・舞台のしくみが工夫されていてすばらしいと思った。 ・歌舞伎舞台が有名な国の宝物であることを知った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台のしくみが理解できるよう、写真やポイントカードを使って各部の名称や機構を確認した後、DVDを見せる。 ・県立歴史博物館や赤城歴史資料館に展示されている歌舞伎舞台の模型の写真及び他校の児童や教職員の見学風景の写真、歌舞伎舞台を紹介した様々な書物などを提示することにより、国の重要有形民俗文化財であることを印象付ける。

(10分)	<p>3 歌舞伎舞台の伝承の歴史を知り、歌舞伎舞台を守り伝える地域のおとなたちの努力や思いを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> こんな大切なものが三原田小のすぐ近くにあるなんてすごいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> 舞台の価値を理解させた後に、歌舞伎舞台に対する思いを再度発表させる。
(7分)	<p>4 歌舞伎を演じる小中学生や指導者の活動の様子と思いを知り、歌舞伎に興味をもつ。</p>	<p>18年ぶりに歌舞伎を行うのは大変なことだったようです。それでも、舞台を動かし、歌舞伎を行おうとしたのは、どうしてでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 巻物型年表を掲示し190年の歴史の長さや上演されなかった期間を視覚的にとらえさせる。 DVDの映像を通して、舞台の歴史や昭和51年以降18年間上演されなかったことを知らせる。 舞台操作伝承委員の星野さんを紹介し、18年間上演されなかった理由を尋ねる。 発言の裏にある心情を聞き出したり、一人の意見を別の児童につないだりして、話し合いを深める。
(8分)	<p>5 歌舞伎を演じる子どもたちの共通した思いから、地域の伝統を守り伝えることの大切さに気付く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 歌舞伎を知っている人がいなくなると、伝えることができなくなってしまうから。 舞台が古くなり使えなくなってしまうと、もったいないから。 昔のように立派な舞台をつくりたいから。 歌舞伎がまた見たいから。 国の重要有形民俗文化財だから。 昔から伝わる大切な歌舞伎舞台や歌舞伎を守っていかなければならないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ○星野さんには、それぞれの意見のよさを認めていただきながら、舞台復活の思いを簡潔に説明していただく。 DVDの映像を通して、舞台操作伝承委員会の発足と活動の様子を知らせる。 伝承委員の須藤さんの仕事を資料で紹介し、拍子木と遠見絵を提示して舞台操作の仕事に興味をもたせる。 読み物資料を読んで長次郎の親戚である都丸さんのメッセージを伝え、舞台に関心をもたせる。 舞台修理の難しさや舞台の見事さを伝えるため、修復工事を請け負う高橋さんの仕事をビデオで紹介し、読み物資料を通してその思いを知らせる。 歌舞伎を演じる地元中学校の生徒の様子をDVDの映像と読み物資料を通して知らせる。 義太夫節をCDで流し、歌舞伎指導者の藤川さんに登場していただく。歌舞伎に興味をもたせるために、歌舞伎の楽しさを伝えていただくと共に、「白浪五人男」で使われる番傘や下駄を提示していただく。 義太夫の関口さんも教室にいらしていることを伝え、4校時の総合的な学習の時間の歌舞伎体験に興味をもたせる。 ○渋川子ども歌舞伎の小中学生の練習風景をビデオで見せた後、読み物資料を使って4人の子どもたちの思いを知らせることにより、それぞれの思いを共感的に理解できるようにする。 子どもたちのコメントを読んで、「歌舞伎を続けたい」という共通の思いを確認する。 ○多様な意見が出されるよう、歌舞伎を続けたいと思った理由をペアで考えさせた後、発表させる。 ○友達のを考え方を尊重しながら聞くことができるよう、聞く態度を見取り励ます。 ・渋川子ども歌舞伎の一場君のビデオレターを視聴させることにより、歌舞伎を続けた
		<p>子どもたちは、なぜ「歌舞伎を続けたい」と思っているのでしょうか。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> 仲間との活動が楽しいから。 歌舞伎が好きだから。 歌舞伎から色々なことを学べるから。 歌舞伎は昔から伝えられてきた大切なものだから。 歌舞伎を守り伝えていかなければならないから。 	

			い理由を知らせると共に、郷土の伝統を守り伝えることの大切さに気付かせる。 ○多様な意見のそれぞれのよさを認める。
終末 7分	6 読み物資料の中から相手を選んで手紙を書き、郷土の伝統を大切にしたいという心情やそのために自分のできることをしようとする実践意欲をもつ。	歌舞伎舞台や歌舞伎について思ったこと、これからしてみたいことなどを手紙に書きましょう。手紙を出したい相手を資料から選び、自分の思いを伝えましょう。	<ul style="list-style-type: none"> 手紙を出す相手を選ばせることで、どの分野に興味をもち、どんな思いを伝えたいのかを評価する。 自己の生き方に結び付けて考えることができるように、「これからしてみたいこと」を書くように伝える。
		<ul style="list-style-type: none"> ◎歌舞伎舞台のしくみのすばらしさがよくわかった。 ◎こんな大切なものが学校のすぐ近くにあるなんてすごいと思った。 ◎上三原田の歌舞伎舞台は私たちの大切な宝物だ。 ◎地域の人たちの努力や協力があったから歌舞伎舞台や歌舞伎が残っているのだと思う。 ◎歌舞伎や舞台操作は難しそうだけど、楽しそう。実際に見てみたい。 ◎歌舞伎舞台や歌舞伎を守り伝えることは大切なことだ。 ◎上三原田歌舞伎を守り伝えるために、私は歌舞伎や舞台操作をしてみたい。 	

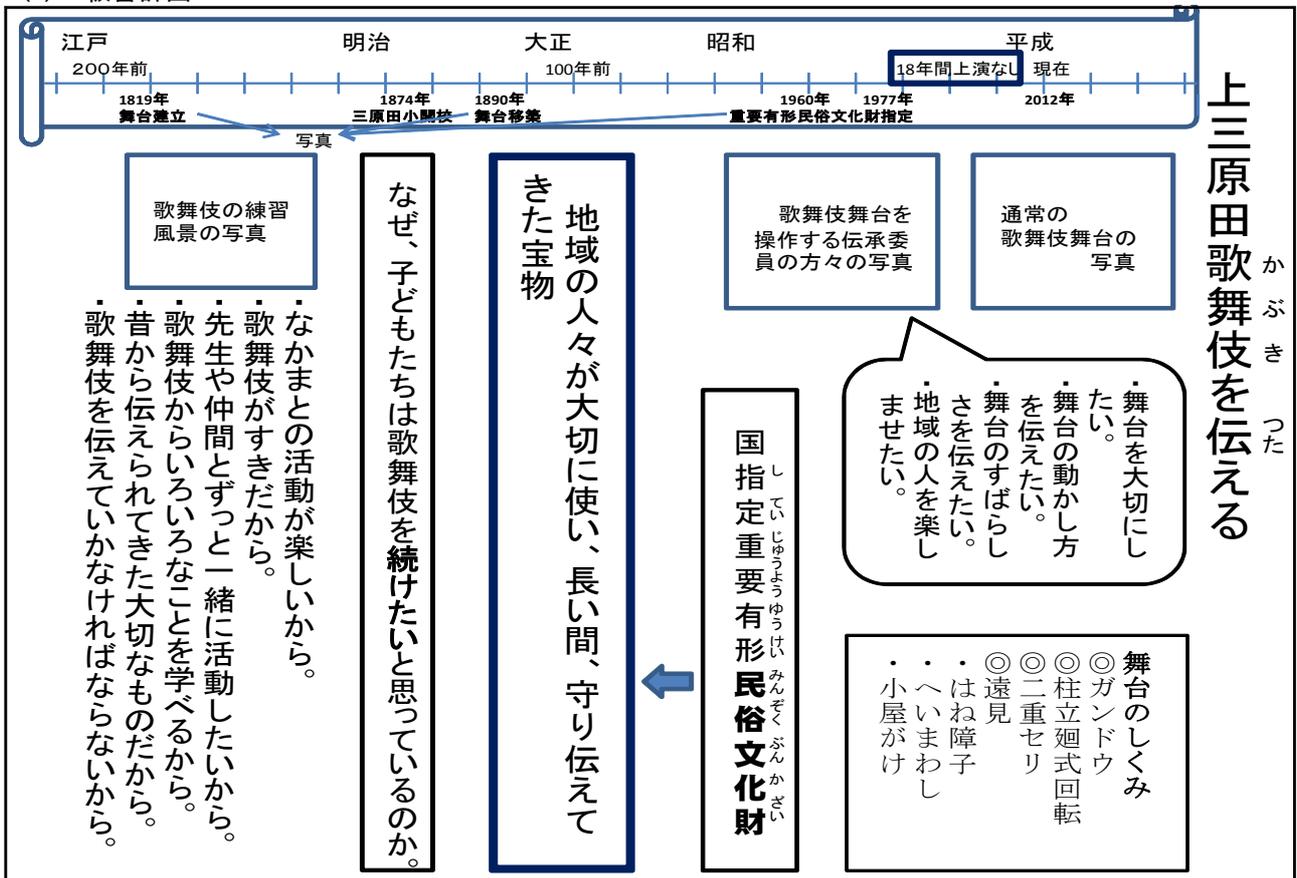
(4) 評価 【評価の観点】

郷土の伝統を大切にしたいという思いや、そのためにこれからしようと思っていることなどが手紙に書けている。【道徳的心情・道徳の実践意欲】

(5) 他の教育活動との関連

社会科や総合的な学習の時間で行った見学や調べ学習を導入の発問に生かす。また、道徳の時間にはぐくんだ心情や実践意欲を事後の社会科や総合的な学習の時間の活動における実践へつなげていく。
本時の学習後の4校時には、総合的な学習の時間を設定し、歌舞伎と義太夫の指導者をゲストティーチャーとして歌舞伎体験や質疑応答を行い、実践の様子を評価する。

(6) 板書計画



第3学年 道徳学習指導案

指導者 神道 朋子

1 主題名 家族と協力し合う心〔4-(3) 家族愛〕

2 資料 ひいおじいちゃんの杉の木（自作の読み物資料）

3 主題設定の理由

(1) 価値について

本主題は、道徳教育の内容項目「4 主として集団や社会とのかかわりに関すること」の中の「(3) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる」にかかわる内容である。

家族は、子どもたちが生まれながらにして所属する最も身近な集団である。家庭は、子どもの人格形成の基盤となる場所であり、家庭で身に付けた様々な資質や能力が他の人や他の集団とのかかわりの中で生かされていく。また、子どもたちは、家族とのかかわりを通して、家庭での自分の立場や役割を知ることによって家族の一員として協力し合い、よりよい家庭をつくろうとする態度をはぐくんでいく。家族の重要な一員であることの自覚をもって父母などを敬愛し、協力し合って楽しい家庭をつくるために進んで役に立とうとする態度を育てることは、他の人や他の集団との望ましいかかわりを築く上でも重要である。

児童は日常生活や低学年における生活科などの学習を通して、家族のために働く父母や祖父母の日頃の様子を知るとともに、お手伝いを通して、家族の一員として役に立つ体験をしてきている。しかし、核家族化や少子化が進行する中で保護者の過保護や過干渉が指摘され、家族とのかかわりが受け身になりがちな子どもも少なくない。そこで、家族が協力することの必要性や進んで役に立とうとすることの大切さを印象付け、家庭生活に積極的にかかわろうとする態度を育てることが大切であると考えられる。

(2) 児童の実態について（略）

(3) 資料について

赤城町の栄地区は、赤城西麓の斜面に広がる土地である。昭和10年頃から人々が移り住み、開墾を始めた。戦後は第二次開拓者が加わり、昭和27年には53戸280人の人々が生活するようになった。開拓が始まって20年ほどしたころ、ようやく電気が引かれ、30年ほどして水道が引かれるなど、生活は便利になっていったが、開拓当初は水も電気もない生活の中で、子どもたちも休みなく働いたようだ。今では当時の生活の様子を知る人も少なくなり、第一次開拓当時の様子を語ってくださる方は、今回取材させていただいた85歳の男性だけとの話であった。

活用する自作の読み物資料「ひいおじいちゃんの杉の木」は、第一次開拓のため、昭和10年に栄へ移住された方（当時小学校2年生）のお話や昭和30年に開拓者として移住された82才の酪農家の方のお話をもとに作成した。また、旧赤城村社会科副読本の内容も参考にし、写真を2枚転載させていただいた。ほとんどが実話であるが、物語性を高めるために、主人公として小学3年生の男の子を登場させ、ひいおじいちゃんから開拓当時の話を聞くという設定にした。そして、取材中85才の方が見せてくださった開拓当時ご自身で植えたという防風林の杉の木を資料名に使い、家族の役に立っている杉の木を見上げながら自分を見つめる主人公の姿を最後に描いた。

本資料は3年生の児童にとっては古い時代の話であるため、人々のくらしの様子を理解するのは難しいと思われる。そこで、郷土の開拓の歴史をより分かりやすく身近なものとしてとらえられるように、平易な言葉を使うこと、当時の様子を伝える写真を挿入すること、ひいおじいさんが当時を回想し、主人公のこうすけに語りかける文章で表現することを心がけた。

児童は、ひいおじいさんの話を通して、栄村を開拓した人たちの苦労や努力を知るとともに、よりよい生活のために家族が協力し合って働くことの大切さについて考えることができるであろう。また、主人公がお手伝いを進んでしようとしないう姿と、ひいおじいさんの話を聞いた後に杉の木を見上げて反省する姿を対比することで、家族が協力することの必要性や進んで役に立とうとすることの大切さを印象付けることができる。授業では、当時のくらしの様子や道具などを写真や実物で提示することにより、児童が生活の様子を実感したり、苦労や努力を重ねた人々の思いを共感的に受け止めたりすることができるようにする。さらに、終末において、家族から届いた手紙を読ませて、家族が抱く自分に対する思いや願いを知らせることで、家族の一員として役に立とうとする心情や実践意欲を育てられるようにしていく。

4 人権教育とのかかわり

近年、保護者の過保護や過干渉、親子のコミュニケーション不足などが指摘され、子どもたちの中には

家族とのかかわりが希薄で受け身になりがちな状況が見られる。また、家庭が人間関係づくりの基礎を身に付ける場となっていない現状も見られる。

中学年段階では、父母や祖父母に対する理解と敬愛の念を深めるとともに、家庭における重要な一員として、家族のためにできることを考え、家庭生活に積極的にかかわろうとする態度を育てることが重要である。

そこで、本時では、自分たちの生活を築き、支え、努力を重ねてきた祖父母などの高齢者たちの思いを読み物資料や映像資料、具体物などを通して理解したり、自分たちの生活のために働く父母の思いを手紙を通して共感的に受け止めたりして、大切な家族のために役に立とうとする思いを深めることができるようにする。

【育てたい能力・態度】

○読み物資料や映像資料、手紙などを通して、生活を築き支えてきた高齢者たちの思いや努力のすばらしさ、自分たちの生活のために働く父母の大切さに気付く。【感性】

○自分の考えを伝えたり、友達の考えを最後までしっかりと聞いたりすることができる。【技能】

○家族が協力し合って働くことの大切さに気付く、みんなで協力し合って楽しい家庭をつくるために自分にできることを考え、実践しようとする意欲をもつ。【実践力】

5 本時の学習

(1) **ねらい**

家族が協力し合って働くことの大切さに気付く、家族の役に立とうとする心情や実践意欲を養う。

(2) **準備**

教師：読み物資料、ワークシート、便箋、ポイントカード、ハート型的心情図、写真、パソコン、大型テレビ、つるはし、茅で編んだ入れ物、水の入った一升瓶2本、家族からの手紙

(3) **展開**

	学習活動	発問 <input type="checkbox"/> 中心発問 <input checked="" type="checkbox"/>	支援及び指導上の留意点
		・予想される児童の意見や意識 ◎目指す児童の意識	○人権教育にかかわる配慮点
導入 3分	1 事前調査の結果から、家族が協力し合って生活していることを確認すると共に、お手伝いの経験を振り返る。	お手伝いが進んでできなかったのは、どんな理由があったからですか。	○事前調査の結果を掲示し、父母や祖父母が家族のために普段から様々な仕事をしていることを確認し、協力し合うことの大切さを印象付ける。 ・事前調査でお手伝いが進んでできなかったと書いた数人の児童にお手伝いを頼まれたときの思いを振り返らせ、本時の主題について関心をもたせる。
展開 32分	2 資料の最初の6行の範読を聞き、お手伝いを進めようとしなない主人公の心情を考える。 3 資料の続きの範読を聞き、家族のためにつらい仕事に耐えた子ども時	お母さんから「お風呂洗いはこうすけの仕事でしょ。」と言われた時、こうすけはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・めんどくさいなあ。 ・ゲームが終わってからやるから、ちょっと待ってよ。 ・言わなくてもわかっているよ。 ・お手伝いなんてなければいいのに。	・主人公こうすけは小学3年生であること、お風呂洗いが決められた仕事であることを確認する。 ・最初の6行だけを読み、お手伝いを進めようとしなない主人公の気持ちを考えさせることで、主人公の普段の様子を印象付ける。 ・多様な意見が出るように、ワークシートに書いてから発表させる。 ・吹き出しに書かせることにより、書くことが苦手な児童も主人公の言葉で思いが表現できるようにする。 ・郷土の開拓の歴史を分かりやすく伝えるために、言葉や場面の説明を一段落ずつ行いながら読み進める。その際、ひいおじいさんが行ったお手伝いをポイントカードで明

代のひいおじいさんの心情を考え、家族の役に立つことが家族の喜びにつながることに気づく。

「泣きたくなる時もあったけど、歯をくいしばって歩いた」ひいおじいちゃんは、心の中でどんな言葉を言っていたのでしょうか。

- ・早く家に着かないかなあ。
- ・重くて、もう疲れた。
- ・つるはしがないと井戸が掘れないから、がんばって歩こう。
- ・お父さんやお母さんが喜ぶだろうな。
- ・早く井戸から水が出るといいな。

4 ひいおじいさんの話を聞いて自分のとった行動を反省するこうすけの心情を考え、家族が協力し合って仕事をするこの大切さに気付く。

ひいおじいちゃんの杉の木を見つめながら、お母さんの言葉を思い出していたこうすけは、どんなことを思っていたのでしょうか。

- ・ひいおじいちゃんは子どものころから家族のために働いていたんだな。
- ・昔の人は大変だったな。
- ・家族が協力し合うことは大切なことなんだな。
- ・ぼくも早くお風呂掃除をしよう。
- ・これからは家族のために進んでお手伝いをしよう。

示し、その下に笑顔の絵カードを掲示してお手伝いが家族の喜びにつながることを印象付ける。

- ・6段落では、大型テレビに赤城町の地図を提示して栄の位置を示し、開墾された土地であることを確認する。
- ・7段落では、開拓者が使っていた道具を写真や実物で提示することにより、手作業の苦労を実感させる。
- ・8段落ではランプの解体写真を提示する。ランプの明るさを室内灯の豆電球の明るさと比較して説明することにより、すす掃除が重要な仕事であったことを実感させる。
- ・9段落では、水の入った一升瓶2本を当時のかばんに入れて全員の児童に事前に背負わせ、本時でその重さについての感想を聞くことで、主人公の苦労を実感させる。
- ・10段落では、つるはしの実物を提示して使い方を説明すると共に、全員の児童に事前に担がせておき、本時で感想を発表させる。また、井戸の深さや主人公の歩いた12キロの道のりを校舎の高さや校庭80周分の距離と比較することで大変な仕事であったことを感じ取らせる。

○多くの児童が発表の機会を得られるよう、「心の中で言っていた言葉」を一人一人に考えさせた後、ペアになって相談させ、その後、全体の前で発表させる。

- ・つるはしを持って帰ってきた息子に家族がかけた言葉を想像させることにより、お手伝いが家族の喜びにつながることを印象付ける。

- ・黒板に掲示してあるお母さんの言葉を確認する。
- ・吹き出しに書かせることにより、書くことが苦手な児童も主人公の言葉で思いが表現できるようにする。
- ・ひいおじいちゃんの仕事だけに着目している児童が多い場合、お手伝いをしようとする思いとしたくない思いをハートマークに色分けして表示し、学習活動2の主人公の心情と比較させることにより、心情の変化に目を向けさせる。
- ・ワークシートの記述内容を見取り、できるだけ多様な考えを発表させる。

○同じ意見に挙手をさせ、発表していない児童も意思表示ができるようにする。また、同じ意見であっても自分の言葉で表現できるように励ます。

- ・「協力やお手伝いがなぜ大切なのか」「どうしてそう考えたのか」など問いかけ、考えを深めさせる。

<p>終末 10分</p>	<p>5 家族から届いた手紙を読んで、家族が抱く自分に対する思いや願いを知ると共に、返事を書くことで、家族の一員として役に立とうとする心情や実践意欲をもつ。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>お家の人からみなさんにお手紙が届いています。 手紙を読んで感じたこと、道徳の授業を通して感じたことを返事の手紙に書きましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・お手伝いをするのは家族が喜ぶことなので、とても大切だと思いました。 ・いつも～をしてくれてありがとう。おかげで～です。 ・家族の一人としてこれからは進んでお手伝いをしたいです。 ・家族のために、毎日～を忘れずにやります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前アンケートの結果として、3年生の中にもお手伝いを進んで行き、家族に喜んでいる人がいることを紹介し、伸ばしたい自分の姿を見つめられるようにする。 ○保護者の方にはあらかじめ手紙に書いていただく内容を伝えておく。前半は家族の大切な一員であることが確認できる内容、後半は「家族の役に立ちたい・協力し合って楽しい家庭をつくりたい」という思いが膨らむような内容となるよう例文を示してお願ひしておく。 ・時間があれば、数名の児童に発表してもらおう。
-------------------	------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(4) 評価 【評価の観点】

協力し合って楽しい家庭をつくろうとする思いや進んで家族の役に立とうとする思い、それらの実現を目指してこれからはしようと思っていることなどが手紙に書けている。【道徳的心情・道徳の実践意欲】

(5) 他の教育活動との関連

前日の社会科見学で訪れたりんご園の方も家族で協力し合って働いていることを導入で紹介する。また、道徳の時間にはぐくんだ心情や実践意欲を事後の社会科「古い道具と昔の暮らし」の学習や日常生活における実践へつなげていく。

(6) 板書計画

